

みんなと探す2人の〈しあわせ〉

～プラットフォームシステム物語～



おじいさんとおばあさんは2人で元気に暮らしていましたが、ある日突然おじいさんが倒れてしまい介護が必要になってしまいました。

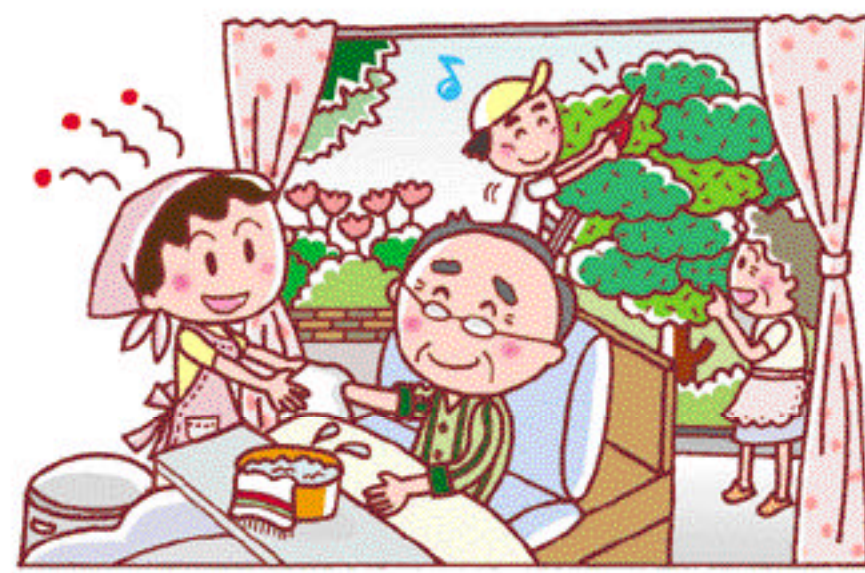


ところが、介護以外にも困ったことがありました。今までおじいさんがやっていた庭木の剪定をやってもらえる人がいないのです。そこでケアマネジャーがボランティアセンターを訪ね、ボランティアコーディネーターに相談しました。

今まで対応しづかったニーズにも応えられます。

既存の公的サービス(介護保険など)や無償のボランティアでは対応しづかったニーズにも、有償の住民参加型在宅福祉サービスなどの利用により、応えることができます。

- ・趣味活動へのサポート
- ・介護者への支援
- ・継続的な生活支援
- (無償のボランティアでは対応しづらい)
- ・高い技術・技能が必要なサービス



ホームヘルパーのサービスを受け始めたおじいさん、窓の外から聞こえてくる、ボランティアの人が“チヨキチヨキ”とはさみを使っている音にひと安心。



1泊外出援助サービスを利用することにしましたが、ボランティアセンターに登録している会員の中では対応できるところがありません。そこで、近隣のボランティアセンターに連絡してみると、同行可能な担い手が見つかりました！



週3日
1日2～3時間

おばあさんは家で介護をしたいと思い、※1在宅介護支援センターに相談し、要介護認定を受けました。その後、※2ケアマネジャーと相談した結果、介護保険を利用して週に3回2時間ずつ訪問介護サービスを受けることにしました。

※1 在宅介護支援センター＝在宅介護をしている家族が必要なサービスを利用するための相談に応じ関係機関・団体との連絡・調整を図りながら支援を行うところ。

※2 ケアマネジャー＝介護に関する専門知識・技術を有し、介護支援サービスを実際に担当する介護支援専門員。



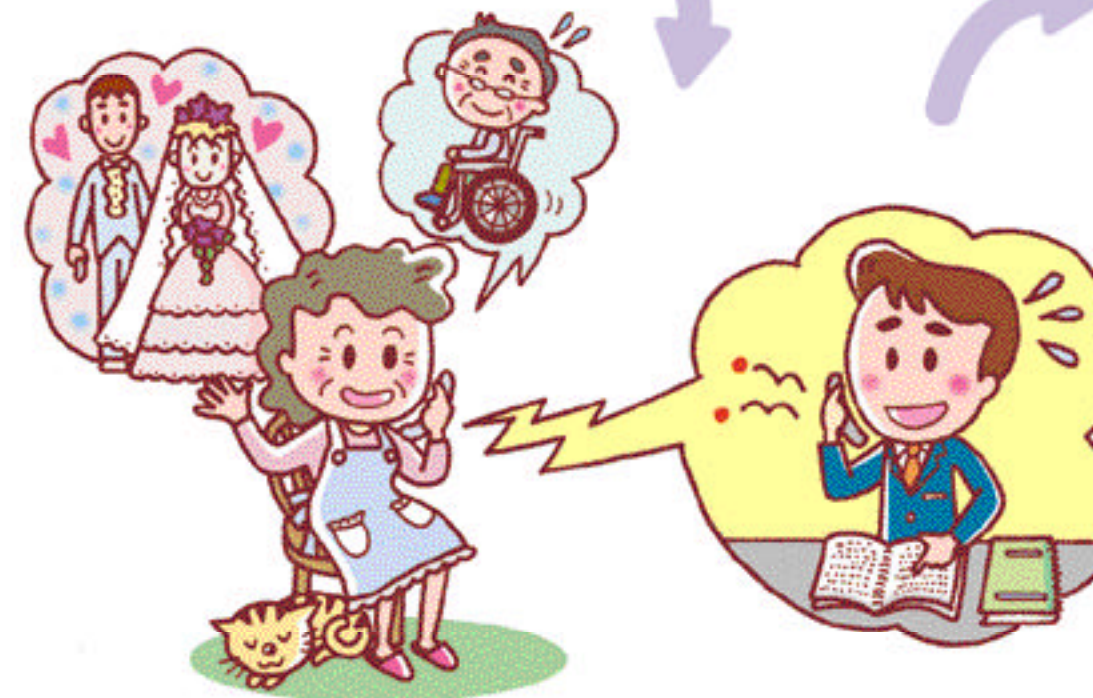
ここに決定!

いろいろな観点から担い手を選択できます。

ボランティアセンターでさまざまな情報を一括管理しているため、その情報を比較検討して希望に叶った担い手を納得いくまで探すことができます。

- ・サービス料金
- ・サービス提供時間帯
- ・実費負担の額
- ・技術力・資格
- ・実績

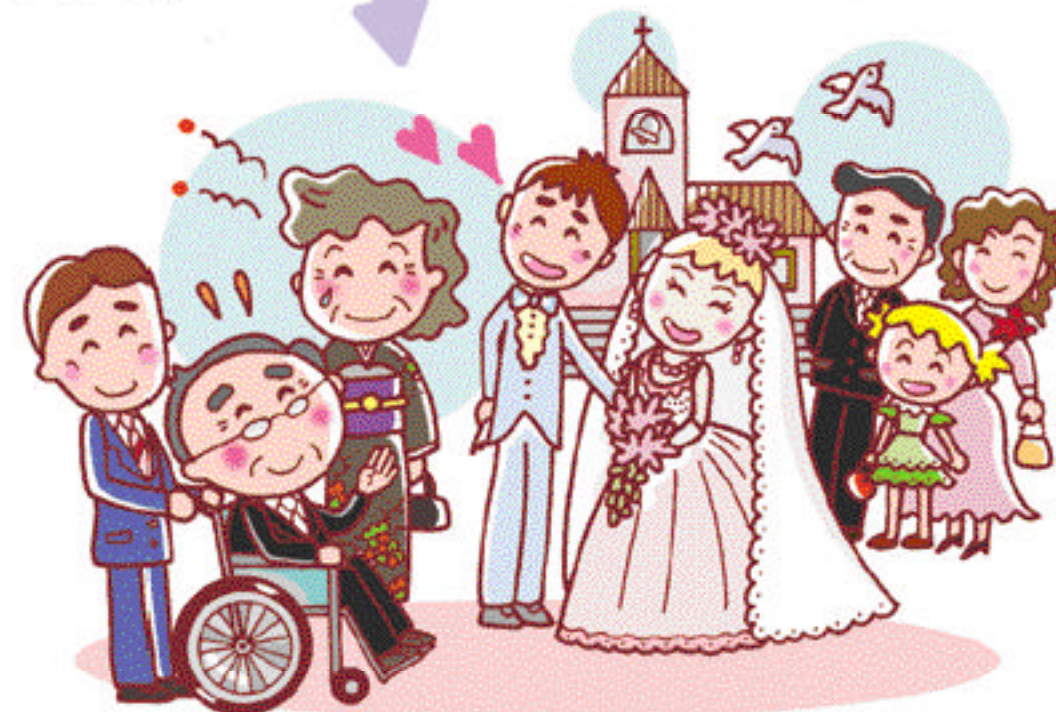
ボランティアコーディネーターは、おばあさんの希望を聞いて、登録している会員(個人、団体)から候補をあげました。いろいろと比べてみたおばあさん、その中からサービスを受けるところを決めました。



遠くに住んでいる孫娘が結婚することに。ぜひ結婚式にはおじいさんと一緒にいきたいおばあさんはボランティアコーディネーターと「何か良い方法がないかしら？」と相談しました。

サービス開始後のフォローも万全です。

サービスを依頼した当初は状況が変わったり、万一、担い手やサービス内容に満足できない場合には、ボランティアセンターに相談し、担い手の変更や追加ができます。また、突発的に起こった困りごとにもネットワークを生かして対応できます。



無事に結婚式に出席し、孫娘の晴れ姿を見ることができたおじいさんとおばあさん。2人の暮らしは、日常生活に必要なちょっとしたサービスから突然の依頼まで応えてくれる、プラットフォームという土台によって支えられているのです。

近隣の市町村のサービスを受けることもできます。

居住する市町村内に条件を満たす担い手がない場合、ボランティアセンターを通じて、近隣の同じ生活圏域の中にある担い手を探すことができ、条件が合えば、サービスを受けることができます。